

## 2種類の肺炎球菌ワクチン 《23価と15価》（改定2023.7）

### 《シニア用の23価肺炎球菌ワクチン（ニューモバックス）》

65歳になる年度〔4月1日～翌年3月31日〕に1回のみ定期接種となりました。平成30年までは5歳刻みで70、75、80、85、90、95と100歳も定期接種です。今年65歳の人は5年後の70歳には定期接種になりません。以前に接種している人も定期接種になりませんが、5-7年後に任意接種はできます。この経過措置はまた5年間延長され2023年度まで延長され2024年3月まで有効です。それ以降は65歳の1年間のみ定期接種となる予定です。

### 《シニア用の15価肺炎球菌ワクチン（バクニューバンス）》

65歳以上で推奨しています。まだ任意接種ですが、免疫細胞（リンパ球）に作用して長期の免疫持続が期待できます。65歳未満でも肺炎に罹りやすい人には推奨しています。

#### 2種類の肺炎球菌ワクチンの使い方

より有利な接種方法と順序と間隔について説明します。

15価を先に接種すると免疫効果が高まり、その後の23価を追加した時により高い免疫が期待できます。初回23価を接種後、5-7年で2回目の23価を追加した時よりも高い予防効果が得られます。23価を追加接種する1年以上前に15価を接種するように計画しましょう。

この肺炎球菌ワクチンは全ての肺炎を予防するものではありません。ワクチンに含まれる種類と関連する数種類にのみ有効とされます。23価は定期接種ですが、15価は自費接種です。

#### 【組み合わせの接種方法】

- 1)23価を期間内に定期接種する。その後は5-7年毎に23価を追加する。定期は1回のみ。
- 2)既に23価を接種している方で、5年経って2回目の23価を接種する予定なら、先に15価を接種して、1年後に23価を任意接種で追加すれば終了。
- 3)23価の定期接種を計画している人は、その1年前に15価を任意接種する。その後23価を定期接種期間内に接種して終了。64歳の方は先に15価を接種して1年後に23価を定期接種します。
- 4)今年度66-69歳の方は、今年は15価を接種しておいて70歳になる年度に23価を定期接種する。71-74歳（75歳）、76-79歳（80歳）、81-84歳（85歳）、86-89歳（90歳）、91-94歳（95歳）、96-99歳（100歳）も同様です。
- 5)脾臓摘出後での免疫低下時の肺炎球菌ワクチンは、23価は保健適応されます。この時にも15価を先に接種して、8週間以上開けて23価を接種すると有利な効果が期待できます。

Ⓐ 23価（1年以上あけて） 15価（1年以上かつ1回目の23価から5年あけて） 23価

Ⓑ 15価（1年以上あけて） 23価【更なる追加接種は不要と考えられています】

Ⓒ 15価（8週間あけて） 23価【脾臓摘出時や免疫低下などで感染リスクが高い時】